

令和5年3月31日現在

1 施設名称

特別養護老人ホーム 眺峰園
(開設 昭和49年9月1日)

2 所在地

大田市川合町吉永 1025 番地 1

3 事業計画の達成状況

(1) 職員が働きやすくやりがいを感じられる職場づくり

ア 福祉・介護業界のイメージアップを図り、多様な働き方を推進する。

実施施策	介護人材確保に向けた効果的な広報発信
取組の方向性①	・介護員に欠員が生じた際、求人手段として、ハローワークや福祉人材センター、新聞折り込みチラシでの求人を行っているが、他の方法も検討し、速やかに欠員が補充できるように取組を強化する。
行動計画	・地域の方に園の取組等知っていただけるよう施設紹介チラシを作成し新聞折込みで配布する。施設紹介チラシ配布後、求人広告を新聞折込みで配布し、介護員の確保に繋げる。
評価	・3月に新聞折込チラシを大田市、美郷町、川本町、出雲市多伎町地区に配布したところ、電話での問い合わせや面接希望があり、採用に繋がるケースがあった。
取組の方向性②	圏域内において人材の速やかな確保に繋げることができるよう、他施設と情報共有し人材確保に向けた取組を行う。
行動計画	・大田市介護サービス事業者協議会が開催する会議や研修会、島根中央地域職業訓練センターが実施する合同就職説明会等において、情報交換及び情報共有を行い人材確保に努める。
評価	・ハローワークが実施する職場説明会や島根県社会福祉協議会が実施する保育・福祉のお仕事相談会へ清風園と共に参加し、採用活動を行った。

実施施策	次世代の介護人材の確保
取組の方向性①	圏域の事業所から研修講師依頼があった際には、ユニットリーダー等職員を講師として派遣し、講義の中で、介護の魅力等を伝え、介護を職業として志す人材を増やすことができるよう取組を継続する。
行動計画	・島根中央地域職業訓練センターが実施する介護初任者研修科へ講師を派遣する。他の事業所から講師依頼があった際には、講師を派遣

		する。
評 価		<ul style="list-style-type: none"> 島根中央地域職業訓練センターから介護職員初任者研修への講師派遣依頼があり、3名を派遣し介護の魅力を伝えた。
取組の方向性②		圏域の事業所から研修講師依頼があった際に、研修講師を務めることができる職員の育成を行う。
行 動 計 画		<ul style="list-style-type: none"> 講師経験を持てるよう、研修部会メンバーを中心に園内研修の講師を行う。 講義実施前に、研修部会で講師担当がプレゼンテーションを行い研修内容や講義方法のブラッシュアップを行う。
評 価		<ul style="list-style-type: none"> 研修部会員が園内研修の1科目は講師を行うこととし、部会員すべてが講義を実施した。また、園内看取り介護研修では、看護師が講師を務めた。 講義実施前に研修部会において、講義内容と資料を確認し、分かりやすい講義内容及び資料となるようブラッシュアップした。

イ 0JT 制度を中核に職員一人ひとりを育成し、チームケアを推進する。

実 施 策		次世代の福祉人材の育成
取組の方向性①		園内研修へ多くの職員の参加が難しい状況であることから、効果的な園内研修の実施方法を検討・実践し、職員のスキル向上を図る。
行 動 計 画		<ul style="list-style-type: none"> 令和3年度に収集した短時間の介護技術動画やマネジメント系動画から理解しやすい動画を研修部会で選択し動画リスト作成を行う。 ユニット会議時に、動画リストよりユニット課題に応じた動画を視聴し知識と技術の向上を図る。
評 価		<ul style="list-style-type: none"> 研修部会において、マネジメント系、介護技術系の動画を集めて内容を検討し、動画リストを作成した。 動画リストより、アンガーマネジメント、ストレスマネジメントに関する4本のマネジメント系動画を選択し、全介護員が視聴した。
取組の方向性②		外部研修に意欲を持ち参加できるよう職員ニーズに沿った外部研修へ派遣し職員のスキル向上に継続して取り組む。また、施設課題を改善できるよう施設ニーズに沿った外部研修へ派遣し施設のレベル向上を図る。
行 動 計 画		<ul style="list-style-type: none"> 職場内 0JT や人事考課面接時に、受講したい研修内容を確認し、希望に沿った研修へ派遣する。 ユニットケアの質を向上できるよう、ユニットケアに関する研修へ職員を派遣する。

評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職場内 OJT シート等により希望する研修の確認は行ったが、新型コロナウイルス感染症予防のため、外部研修への派遣は中止した。オンライン研修については、職員の希望に基づき、介護支援専門員向けの研修やユニットリーダー研修等を受講した。 ・ ユニットケア施設管理者研修及びユニットリーダー研修（オンライン研修）を各 1 名が受講した。
-----	---

実 施 策	職場内の横の関係強化
取組の方向性 ①	職員同士の信頼関係を構築し、チーム力の向上が図れるよう職場内 OJT 制度を充実させる。
行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・ スーパーバイザーとバイザーの相互理解と信頼関係を構築できるよう短時間面談を充実する。
評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・ スーパーバイザーとバイザーが定期面談以外の 6 月・8 月・10 月・12 月・1 月に 3～5 分間程度の短時間面談を実施した、面接の実施状況について 9 月と 2 月にグループリーダーが確認した。
取組の方向性 ②	職場内 OJT 面談において、効果的な面談を実施し、職員を育成することができるよう、面談技術の向上を図る。
行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職場内 OJT で設定されているグループリーダー同席面談時に、グループリーダーが、より効果的な面談が実施できるようスーパーバイザーにフィードバックを行う。
評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・ グループリーダーが職場内 OJT 定期面談に同席し、必要に応じて会話が進むよう意見集約や質問を行い、効率的に面談が進むよう努めた。面談終了後、必要に応じてスーパーバイザーに面談方法についてアドバイスをを行った。

ウ 職場風土を改善し、職員の定着率とモチベーションを高める。

実 施 策	多職種との連携と専門性の向上
取組の方向性 ①	多職種間において円滑なコミュニケーションが図れる職場環境作りの取組を強化する。
行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和 3 年度より実施している、コミュニケーション向上月間目標の取組を継続する。各自の取組について、ユニット会議等で毎月振り返りを行う。
評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・ コミュニケーションの向上に向けて、毎月のテーマをユニット会議等で周知し、翌月のユニット会議等で、振り返りを行った。また、毎月のテーマについて作成したポスターを、職員玄関に張り出し、周知を図った。

取組の方向性②	多職種協働を行っていく上で、各専門職の知識や技術力の向上が必要であることから、各専門職の知識・技術力の更なる向上に取り組む。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> 令和3年度に研修部会にて作成した介護技術チェックシートを用い自己チェックを行う。指導が必要な項目について各専門職が指導する。指導1か月後にフォローを行い、必要に応じて再指導を行う。
評価	<ul style="list-style-type: none"> 6月に介護技術チェックシートを用い、自己チェックを実施した。集計結果から、「A」評価が少なかった8項目をリスト化し介護員へ改善を呼びかけた。12月に改善項目とした8項目を自己チェックし、7項目で改善が見られた。

実施施策	職員の定着や職員間の交流に向けた取組
取組の方向性①	準職員、非常勤職員の定着に繋がるよう、定期的に管理職が面接を実施する。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> 準職員・非常勤職員を対象に年2回（6月、2月）管理職面接を行う。栄養管理スタッフについては、希望に基づき年3回（6月、10月、2月）管理職面接を行う。
評価	<ul style="list-style-type: none"> 計画に基づき、管理職が6月・2月に準職員・非常勤職員との面接を実施した。栄養管理スタッフについては、6月・10月・2月に面接を実施した。
取組の方向性②	職員が職業意識を高く持ち、仕事に取り組むことができるよう、職員のモチベーション向上に新たに取り組む。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> 令和3年度より研修部会において検討しているモチベーションの把握方法を決定し調査を行う。調査結果から導き出された課題を改善できるよう対策を検討し実行する。
評価	<ul style="list-style-type: none"> 研修部会において、モチベーションチェックシート（あなたの「やる気スイッチ」はどこ？）を作成し、全職員に自己チェックを行い、今のモチベーション状態と、自分のモチベーションを左右する要因を把握した。 サンクスカードの取組を年2回実施し、スタッフ間のフォローアップとコミュニケーションの向上を図った。

エ 業務の生産性を高め、ワークライフバランスを推進する。

実施施策	ICT機器の積極的活用と職員の負担軽減
取組の方向性①	ICT検討委員会において、業務負担を軽減できるICT機器を検討し計画的に導入するとともに、導入したICT機器の積極的活用を行う。

行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> ICT 検討委員会において、眠り SCAN の効果的活用方法やビジネスチャット等業務負担軽減を図れる ICT 機器の検討を行う。
評 価	<ul style="list-style-type: none"> ICT 検討委員会において、眠り SCAN 活用マニュアルを作成するため、ユニット毎に活用方法を決めて取り組み、眠り SCAN 活用マニュアルを作成した。 ICT 検討委員会の委員で Chatwork（業務用チャット）を試行したが、フリープランの内容に変更があり試行が困難となったため、Chatwork に関する検討は中止した。

実 施 施 策	移乗用具の活用による腰痛予防と身体への負担軽減
取 組 の 方 向 性 ①	脱衣場における移乗介助時の腰痛予防及び入居者・職員双方の身体的負担軽減を目的として天井走行リフトを計画的に導入する。
行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> 南棟 1 階の設置ユニットを決定する。 設置ユニットと施工時期を決定し、天井走行リフトを設置する。
評 価	<ul style="list-style-type: none"> すみれユニットへの天井走行リフト導入を決定していたが、費用面と活用頻度の点から、導入を中止した。
取 組 の 方 向 性 ②	機能訓練指導員を中心に、移乗用具の技術伝達を行い、移乗用具の積極的活用と抱え上げない介護を促進する。
行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> 機能訓練指導員と福祉用具メーカーで、抱え上げない介護研修をユニットリーダーを対象に年 4 回実施する。 機能訓練指導員は、ユニットリーダーと共同し、抱え上げない介護が定着するよう定期的に現状把握と技術指導を行う。
評 価	<ul style="list-style-type: none"> 福祉用具メーカーと福祉用具貸与・販売事業者の協力を得て、ユニットリーダーを対象とした抱え上げない介護研修を 5 月～8 月に毎月実施した。11 月～2 月に再研修を予定していたが、天井走行リフト導入が中止となったため、研修についても中止とした。 ユニットからの要望により、機能訓練指導員が抱え上げない介護の技術指導を実施した。

(2) 利用者の生活を支えるサービスの質の向上

ア 先進的で魅力あるサービスを提供し、サービスの質を高める。

実 施 施 策	職場におけるストレス軽減に向けた取組
取 組 の 方 向 性 ①	職員のストレスを把握し、職員のストレスを軽減できるようストレスマネジメントの取組を継続する。
行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> 研修部会で、令和 3 年度に作成したストレスマネジメントシートのブラッシュアップと活用方法の検討を行う。

評 価	<ul style="list-style-type: none"> ブラッシュアップしたストレスマネジメントシートを用い、全職員を対象に9月に自己チェックを実施し、各部署におけるストレス原因を把握した。12月の各部署の会議にて、回答の多かった「業務が忙しすぎて処理しきれないと感じる。」について、出来る対策を検討し、3月まで改善に向けた取組を行った。
取組の方向性②	職員同士が協力し合い業務に取り組むことができるよう職員のフォローシップ力の向上に新たに取り組む。
行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> 研修部会で、令和3年度に実施したフォローシップチェック結果を分析し、課題に対する強化策を検討・実施しフォローシップ向上に取り組む。
評 価	<ul style="list-style-type: none"> 6月にフォローシップチェックを実施・集計し、出来ていない項目から4点を抽出して改善案を提言した。特に「勤務時間中は業務に関係ない話をしないよう努力していきましょう。」についての取組を促した。12月に再チェックを実施したが大きな変化は見られなかった。

実 施 策	ユニットケアの質の向上
取組の方向性①	ユニットリーダー研修実地研修施設チェックシート・実地研修施設選定調査票（自己評価）を用い現状分析を行い、改善が必要な項目の改善を行いユニットケアの質の更なる向上を図る。
行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> 実地研修施設チェックシートと選定調査票を用いた評価を年度当初に実施し、改善が必要な項目から3つを選定し、1年をとおして改善を行う。 家事援助技術の向上を目指し、年間計画で家事援助研修を実施し、技術力の向上に取り組む。
評 価	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度改善計画に基づき取り組み、概ね改善することができた。 11月に果物カット講習会を実施した。他の家事援助研修は次年度以降必要に応じて実施することとした。
取組の方向性②	ユニットケアの質の向上を図れるよう、先進的な取組を行っている他県のユニットリーダー実地研修施設の視察を行う。
行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> 関西、中四国、九州にあるユニットリーダー実地研修施設へ職員を派遣する。 派遣が難しい場合は、全国老人福祉施設研修大会等の研修資料から先進的な取組や活用できる取組を学ぶ。

評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新型コロナウイルス感染症予防のため県外への職員派遣は中止した。 ・ ICT 検討委員会において、眠り SCAN を活用した先進的な取組を把握するため、全国老人福祉施設研修大会等の資料やパラマウントベッド主催のオンライン研修を活用した。
-----	--

実 施 策	その人らしい生活へのサポートの充実
取組の方向性①	個別ケアの充実を図れるよう 24H シート各項目の記載内容の更なる充実に取り組む。
行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 意向・好み聞き取りシートを活用し、24H シートの意向・好み欄の記載量を増やす。
評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・ ユニットケア部会で事前にユニットの意向・好みの聞き取りシートの現状把握を行い、記載量が充実するよう取組を行った。年間を通じて、取組を実施したことで、記載内容に良い変化が見られた。
取組の方向性②	24H シートと記録の連動を図ることにより入居者の暮らしを見える化し、その人らしい生活へのサポートの充実に取り組む。
行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・ ユニットケア部会員が中心となり、各ユニットの記録が 24H シートと連動したものとなっているか定期的に確認を行い、24H シートと記録が連動するよう取り組む。
評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・ ユニットケア部会で、24H シートと記録の連動で足りないものを確認し、確認した内容をユニットに周知したことで、24H シートと記録の連動について改善が見られた。

実 施 策	高齢者の理解と看取りケアの充実
取組の方向性①	看取り期を迎えた入居者それぞれの状況に適した看取りケアの実践が行えるよう看取りケアスキルのレベルアップを図る。
行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「看取り介護指針・説明支援ツール」等を活用した園内研修等を実施する。
評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 看護師を講師として、「看取り介護指針・説明支援ツール」等を活用した園内看取り介護研修等を 2 回実施した。
取組の方向性②	看取り期を迎えた入居者が、最期に至るまで、その人らしい生活を継続できるよう多職種と家族が連携した看取りケアの一層の充実を図る。
行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 看取りケアに関する家族の理解を深めるため、年 1 回家族向けの研修会を実施する。

評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家族向けの研修会を2回予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大を受け中止としたため、ご家族には県が作成した ACP テキストを配布した。
-----	--

イ 安全安心で快適な暮らしを保障し、利用者の満足度を高める。

実 施 策	自己評価の実施と課題解決に向けた取組
取組の方向性①	眺峰園ユニット職員到達目標を用い、職員一人ひとりのレベルアップを図り、ユニット職員として求められる適切なサービスの提供を実践できるよう取組を強化する。
行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 改訂版「眺峰園ユニット職員到達目標」を用いて、6月、12月に自己チェックを行う。
評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 6月に自己チェックを実施し、その結果を基に個人目標及びユニット目標を設定し改善に取り組んだ。11月に再チェックを行い、評価を行い、新たな個人目標を設定し取組を継続することとした。

実 施 策	災害や感染症等発生に伴う施設内での助け合い
取組の方向性①	災害や感染症が発生した際にマニュアルに沿って迅速かつ適切な行動がとれるようマニュアルの周知を図る。また、現状に沿ったマニュアルとなるよう定期的な見直しを行う。
行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 訓練実施2か月前に、各部署でマニュアル内容の確認を行う。 ・ 状況変化等に伴い、マニュアルを見直す必要がある際は見直しを行う。
評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 8月の夜間避難訓練時は、マニュアル配布が遅れ、1か月前の確認となったが、11月の夜間避難訓練時は、2か月前にマニュアルを配布し、各部署でマニュアル確認を行うことが出来た。 ・ 今年度の訓練においては、マニュアルの見直しは必要なかった。
取組の方向性②	災害や感染症により、ユニット間協力が必要となった際の協力体制の確立やシミュレーションの実施により危機管理体制を強化する。
行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年間計画に基づき、災害（火災・土砂）並びに感染症発生対応訓練を行う。
評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年間計画に基づき、夜間避難訓練を8月、11月に、土砂災害訓練を3月に実施した。 ・ 各ユニットの感染症担当者向けに、5月と8月にコロナウイルスゾーニング訓練を実施し、8月～10月の間で、感染症担当者が中心となり、各ユニットでのゾーニング訓練を実施した。

実 施 策	その人に応じた美味しい食事提供
取組の方向性 ①	食事形態の多様化が求められ、作業の効率化を図る必要があることから、作業の効率化を考えた厨房機器の更新を行う。
行 動 計 画	・ 厨房機器の更新を行った際に、効率よく使いこなせるよう、厨房内で業者説明の伝達や情報共有を行う。
評 価	・ 導入後のイメージをシミュレーションし、令和5年度以降の機器導入に備えることとした。
取組の方向性 ②	入居者の多様な食事形態に対応できるよう、職員体制や食事提供内容、作業工程の見直しを図る。
行 動 計 画	・ 厨房機器導入に伴う作業工程の見直しを行い、必要な工程に人員を配置できるようにする。
評 価	・ 厨房会議を実施し、必要時作業工程の見直しを行い、令和5年度以降の機器導入に備えることとした。
取組の方向性 ③	入居者の嚥下状態に適した食事形態を検討し、提供に繋げることができるよう介護職員の嚥下調整食コード分類に対する理解促進を図る。
行 動 計 画	・ 食事部会やユニット会議等で、嚥下調整食コード分類の資料説明を行う。
評 価	・ 10月に嚥下調整食コード分類に関する研修を実施した。

ウ 施設機能を積極的に開放し、地域とのつながりを強化する。

実 施 策	圏域内での連携とニーズ把握による事業展開
取組の方向性 ①	大田市介護サービス事業者協議会が開催する会議、研修会へ参加し、大田圏域の特別養護老人ホームや他事業所と情報交換等行い連携を図る。
行 動 計 画	・ 大田市介護サービス事業者協議会における活動を通じて、各施設との情報交換を行い、圏域の情報を把握する。
評 価	・ 大田市介護サービス事業者協議会において、各施設と情報交換を行い、圏域情報の把握に努めた。
取組の方向性 ②	大田市社会福祉協議会等と連携を図り、地域ニーズを把握し、ニーズに基づいた地域貢献活動を行う。
行 動 計 画	・ 大田市社会福祉法人連絡会を通じて、地域貢献活動を検討する。
評 価	・ 大田市社会福祉法人連絡会において、大田圏域の社会福祉法人がどのような地域貢献活動を行っているか掲載した小冊子を作成することとなり、眺峰園の地域貢献活動について情報提供を行った。

実 施 策	地域との関わり強化と地域の人材の活用
取組の方向性①	川合まちづくりセンターと川合地区における災害発生時に園としてできること、園に求められることのすり合わせを行い、災害時の協力体制を確立する。
行 動 計 画	・ 川合まちづくりセンターと災害時の協力体制について話し合いの場を設け、検討する。
評 価	・ 清風園と合同で開催した地域防災会議において、大田市危機管理課より、福祉避難所の役割と現状について説明を受け、関係者と当園の福祉避難所としての役割について、情報共有を図った。
取組の方向性②	地域ボランティアを発掘し、地域との交流機会を作り、地域に開かれた施設づくりに改めて取り組む。
行 動 計 画	・ 令和3年度に調査した各ユニットのボランティア希望調査を基に、ボランティアの募集方法を検討し、ボランティアを募る。
評 価	・ 園の希望するボランティアとボランティア団体のマッチングが難しかったことから、個人ボランティアを発掘することとし、退職者や第三者委員の方へ呼びかけたところ、3名の方から希望があった。新型コロナウイルス感染症が収束した際には、希望のあった方へボランティアを依頼することとした。

(3) 安定的で持続的な経営基盤の確立

ア 収入の安定確保と経費増大の抑制で、安定性の高い財務体質を維持する。

実 施 策	利用率の維持向上
取組の方向性①	安定した収支を維持できるよう、入退所に係る空床期間の短縮への取組と短期入所生活介護でのスケジュール管理と居宅介護支援事業所との連携によるキャンセル時の対応を図り、利用率の維持・向上を図る。
行 動 計 画	・ 退去から新規入居までの空床期間縮減（1週間以内）に取り組む。
評 価	・ 新型コロナウイルス感染症の影響で1週間以内の入居が難しい時期もあったが、概ね退去後1週間以内の入居とすることができた。

実 施 策	居宅介護支援事業所の安定的経営
取組の方向性①	介護支援専門員の受け持ち件数を維持・向上し、居宅介護支援事業所の安定的経営を図る。
行 動 計 画	・ 居宅介護支援と介護予防支援を合わせた受け持ち件数 39 件を維持する。

評 価	・ 受け持ち利用者の入退院が影響し、居宅介護支援と介護予防支援を合わせた件数が38件となり、目標を下回った。
-----	--

イ 中長期的な視点をもって、持続性の高い経営を行う。

実 施 策	交流空間の拡充と既存建物の整備
取組の方向性①	1階へのパブリックスペース整備を検討し、交流空間の拡充を図る。
行 動 計 画	・ 1階へのパブリックスペース整備の必要性を整理し、必要性が認められる場合は、事務局と協議を行う。
評 価	・ 昨年度から引き続きパブリックスペースの必要性の検討を行ったが、費用面に課題があり整備の検討は進まなかった。
取組の方向性②	1階光庭の劣化に伴い、景観が悪化していることから、スチール目隠しフェンス設置、舗装整備を計画的に行う。
行 動 計 画	・ 南棟光庭の舗装整備とスチール目隠しフェンスの設置を行う。
評 価	・ 南棟光庭の舗装を整備し、スチール目隠しフェンスを設置した。

実 施 策	機器類の計画的更新と大規模修繕への取組
取組の方向性①	故障やトラブルが発生しないよう設備機器の定期的な点検を実施する。また、更新が必要な設備機器については計画的に更新を行う。
行 動 計 画	・ 年2回、業者立会いの下、設備機器（エコキュート、電話設備）の点検を行う。
評 価	・ 設備機器（エコキュート、電話設備）については、不具合が生じた際の修理に合わせて点検を実施した。
取組の方向性②	令和6年度から大規模修繕計画の対象となることから、令和5年度に大規模修繕が必要となる建物や設備の老朽化の把握を行い、事務局と連携しながら整備手法や優先順位の検討を行う。
行 動 計 画	・ 設計者、施工者等と連携し、建物と設備の老朽化の状況を把握し修繕の必要性について事務局と協議する。
評 価	・ 建物の定期調査にて現状確認を行った。また、大規模修繕について、事務局・設計者と協議を行った。

ウ 組織内の連携を強化し、強固な組織体制と経営基盤を確立する。

実 施 策	リスクマネジメントと法令遵守の強化
取組の方向性①	事業継続計画運用に関する職員の参加意識を高め、災害発生時の事業リスク把握や早期対応が実施できる体制づくりを行う。
行 動 計 画	・ 一般職員向けにBCPの基本的事項に関する研修を行う。

		<ul style="list-style-type: none"> 管理職向けに、BCP 全般と運用に関する研修を行う。
評 価		<ul style="list-style-type: none"> 一般職員向けに BCP の基本的事項に関する研修を行った。 管理職向けに BCP 全般と運用に関する研修を実施した。
取組の方向性②		法令や社会・社内規範に対する職員一人ひとりの意識を高め、法令遵守の徹底に向けた取組を強化する。
行 動 計 画		<ul style="list-style-type: none"> 研修部会で、令和3年度に実施したコンプライアンスチェック結果の分析を行い、強化策を検討・実施しコンプライアンス強化に取り組む。
評 価		<ul style="list-style-type: none"> コンプライアンスチェックを実施し、結果の確認を研修部会において実施した。集計結果を配布し、評価の低かった項目の改善を呼びかけることで、職員が法令遵守について意識を高めた。

実 施 策	理念の浸透と実践
取組の方向性①	ユニットケア実践理念の浸透に取り組むと共に、ユニットケア実践理念に沿ったケアを実践できるよう、ユニットケア実践理念と実践の結びつけを行う。
行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> 理念と実践の結び付けシートを活用し、入居者の生活場面・ケア場面と実践理念の結び付けを行う。
評 価	<ul style="list-style-type: none"> 各部署の会議で、園長による理念浸透研修を実施した。 また、理念と実践の結び付けシートの記入を実施し、取組結果をユニットケア部会で共有した。

4 数値目標

事業名	目標	実績	評価
介護老人福祉施設	98.0%	97.9%	入退去の空床期間は概ね7日以内であったが、入院件数及び入院日数が多い月があり、目標値に僅かに届かなかった。
短期入所生活介護	92.0%	91.3%	新型コロナウイルス感染症罹患者が出たため、新規受入を中止した期間があり、目標値に届かなかった。
居宅介護支援	37件/月	34件/月	受持利用者の入退院や介護支援専門員の入院により、受入を中止した期間があり、目標値に届かなか

			った。
介護予防支援業務受託件数	4 件/月	5 件/月	新規申込が多く、目標値を上回った。

5 実施事業

事業の種類	名称	利用定員
介護老人福祉施設	特別養護老人ホーム眺峰園	70人
短期入所生活介護		10人
居宅介護支援	大田眺峰園居宅介護支援事業所	

6 入居者の状況

(1) 入退所去の状況

月	前月末入居者数	左の内訳		新規入居者数				退所者数					死亡退所の内訳		
		県内	県外	在宅から	病院から	他の施設から	計	在宅へ	長期入院	他施設へ転出	死亡	その他			計
4月	70	0	0	0	0	2	2	0	0	1	2	0	3	施設内	18
5月	69	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	0	1	入院先	4
6月	69	0	0	0	0	3	3	1	0	0	2	0	3	その他	0
7月	69	0	0	1	0	1	2	0	0	0	2	0	2	看取り介護の件数	
8月	69	0	0	1	0	2	3	0	0	0	4	0	4		
9月	68	0	0	1	1	1	3	0	0	0	1	0	1	13	
10月	70	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	0	1		
11月	70	0	0	1	0	0	1	0	0	0	3	0	3		
12月	68	0	0	1	0	1	2	0	0	0	0	0	0		
1月	70	0	0	0	1	1	2	0	0	0	2	0	2		
2月	70	0	0	0	0	1	1	0	0	0	2	0	2		
3月	69	0	0	0	0	3	3	0	0	0	2	0	2		
計	831	0	0	5	2	17	24	1	0	1	22	0	24		

(2) 令和5年3月31日における性別と年齢構成の状況

	40～64歳	65歳～70歳	71～75歳	76～80歳	81～85歳	86～90歳	91～95歳	96～100歳	101歳超	計	平均年齢
男性	0	0	0	1	3	4	2	2	0	12	88.8歳
女性	0	0	1	7	2	23	11	13	1	58	90.0歳
計	0	0	1	8	5	27	13	15	1	70	89.4歳

(3) 令和5年3月31日における入居期間の状況

	半年未満	半年～1年	1年～1.5年	1.5年～2年	2年～2.5年	2.5年～3年	3年～3.5年	3.5年～4年	4年～4.5年	4.5年～5年	5年～10年	10年超	計	平均入居期間
男性	2	4	4	2	0	0	0	0	0	0	0	0	12	11か月
女性	8	9	2	8	5	3	4	2	0	3	9	5	41	3年0か月
計	10	13	6	10	5	3	4	2	0	3	9	5	53	3年1か月

7 利用実績

(1) 介護老人福祉施設

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
開所日	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
延定員	2,100	2,170	2,100	2,170	2,170	2,100	2,170	2,100	2,170	2,170	1,960	2,170	25,550
延実績	2,088	2,103	2,049	2,077	2,122	2,085	2,165	2,068	2,152	2,105	1,903	2,096	25,013
要介護1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護3	393	395	352	409	431	354	341	321	389	359	336	334	4,414
要介護4	1,052	1,027	1,030	943	952	990	1,013	934	899	893	794	884	11,411
要介護5	643	681	667	725	739	741	811	813	864	853	773	878	9,188
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
報酬の算定状況	日常生活継続支援加算Ⅱ		個別機能訓練加算Ⅰ		初期加算			介護職員処遇改善加算Ⅰ					
	看護体制加算Ⅰ		個別機能訓練加算Ⅱ		看取り介護加算Ⅰ			介護職員等特定処遇改善加算Ⅰ					
	看護体制加算Ⅱ		精神科医療養指導加算		科学的介護推進体制加算Ⅱ			療養食加算					
	夜勤職員配置加算Ⅳ		外泊時費用		安全対策体制加算			介護職員等ベースアップ等支援加算					
医療的ケアの実施状況	血糖測定・インスリン注射		静脈内注射(点滴含)		ストーマ管理			酸素療法					
	経管栄養		褥瘡処置		カテーテル管理			喀痰吸引					
	創傷処置		服薬管理		認知症ケア			浣腸					
平均利用者数	平均区分			平均利用率			年度末における入居待機登録者数		入居検討委員会開催回数(年間)				
68.6	4.2			97.9%			97人		4回				

(2) 短期入所生活介護

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
開所日	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
延定員	300	310	300	310	310	300	310	300	310	310	280	310	3,650
延実績	278	287	279	305	300	281	244	281	254	273	268	283	3,333
要介護1	25	25	14	14	11	22	8	17	8	10	17	15	186
要介護2	59	68	57	78	61	37	45	40	49	51	70	76	691
要介護3	114	115	123	72	75	84	73	86	67	84	46	45	984
要介護4	72	69	77	132	140	128	105	105	109	120	128	118	1,303
要介護5					3		7	24	14			19	67
その他	8	10	8	9	10	10	6	9	7	8	7	10	102
報酬の算定状況	サービス提供体制強化加算Ⅱ			夜勤職員配置加算Ⅳ			機能訓練指導体制加算			緊急短期入所受入加算			
	送迎加算			介護職員処遇改善加算Ⅰ			介護職員等特定処遇改善加算Ⅰ			介護職員等ベースアップ等支援加算			
平均利用者数			平均区分			平均利用率							
9.2			3.1			91.3%							

(3) 居宅介護支援

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
居宅介護支援	39.0	39.0	36.0	36.0	34.0	31.0	31.0	31.0	32.0	32.0	32.0	32.0	405.0
介護予防支援	6	6	5	5	5	5	5	4	5	5	5	5	61
報酬の算定状況	初回加算				退院・退所加算Ⅰ			入院時情報連携加算Ⅰ					

8 施設職員の状況

(1) 介護老人福祉施設、短期入所生活介護

	施設長 (管理者)	事務職員	生活 相談員	介護支援 専門員	介護職員	看護職員	機能訓練 指導員	栄養士	調理員	医師	その他	計
正規職員	1	2	2	1	24	4	1	1	2	0	0	38.0
準職員	0	1	0	0	12	0	0	0	2	0	0	15.0
非常勤職員	0	0	0	0	7.4	0.6	0	0	1.8	0.2	5.15	15.15
計	1	3	2	1	43.4	4.6	1	1	5.8	0.2	5.15	68.15

(2) 居宅介護支援

	施設長 (管理者)	事務職員	生活 相談員	介護支援 専門員	介護職員	看護職員	機能訓練 指導員	栄養士	調理員	医師	その他	計
正規職員	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1.0
準職員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
非常勤職員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
計	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1.0

(3) 施設全体

	施設長 (管理者)	事務職員	生活 相談員	介護支援 専門員	介護職員	看護職員	機能訓練 指導員	栄養士	調理員	医師	その他	計
正規職員	1	2	2	2	24	4	1	1	2	0	0	39.0
準職員	0	1	0	0	12	0	0	0	2	0	0	15.0
非常勤職員	0	0	0	0	7.4	0.6	0	0	1.8	0.2	5.2	15.2
計	1	3	2	2	43.4	4.6	1	1	5.8	0.2	5.2	69.2
業務委託の 状況	委託なし											

※非常勤職員については常勤換算数で記載

9 施設における職員研修の実施状況

(1) 施設内研修

研修名称	実施日	参加者数
高齢者の虐待防止に関する研修	4月20日	6名
接遇研修	4月20日	6名
ユニットケアについて	5月18日	11名
24Hシートについて	5月18日	11名
新型コロナウイルス感染症拡大防止ブリーニングシュミレーション	5月～6月	50名
事故防止 I	6月15日	8名
身体拘束適正化のための研修 I	6月15日	8名
感染予防研修 I（食中毒）	6月29日	12名
BCPに関する研修（一般職員向け）	7月6日	10名
BCPに関する研修（管理職向け）	7月6日	2名
記録に関する研修	7月21日	12名
看取り介護研修	7月21日	12名
新型コロナ感染症と生活習慣病	8月10日	11名
介護技術研修	9月13日	13名
腰痛予防研修	9月13日	13名
24シート更新方法研修	9月7日・21日	9名
感染症予防研修 II（嘔吐等）	10月～11月	40名
褥瘡に関する研修	10月12日	8名
嚥下調整食コード分類研修	10月12日	8名
ハラスメント防止研修	11月16日	9名
法令遵守に関する研修	11月16日	9名
令和4年度 園内実践報告会I・II	12月14日・22日	21名
メンタルヘルス研修	1月11日	9名
園内看取り介護研修会	1月23日・30日	20名
身体拘束適正化のための研修 II	2月15日	9名
事故防止研修 II	2月15日	9名
事業計画・事業実施計画説明会	3月14日	71名

(2) 派遣研修

研修名称	実施日	参加者数
大田市立病院地域連携研修会	5月25日	1名
総会研修会（島根県介護支援専門員協会）	5月26日	1名
高齢者住まい看取り研修会	6月17日・8月25日・8月29日	4名
令和4年度福祉士養成実習施設実習指導者研修会	7月9日	1名
島根県老人福祉施設協議会第1回総会	7月15日	1名
中国地区老人福祉施設長研修会	7月28日	1名
介護ICTの導入で利用者定着と利益率UP	8月4日	1名
離職率33パーセントからゼロへの研修	8月10日	1名
第1回大田圏域高次脳機能障がい者支援研修	8月31日	1名
島根県メンタルヘルスクア研修会	9月7日	1名
介護支援専門員専門研修兼更新研修（実務経験者）	9月19日	1名
ユニットケア施設管理者研修	9月21日	1名
島根県介護支援専門員協会管理者向け研修会	10月1日	1名
第3回定例会（大田市介護サービス事業者協議会）	10月19日	1名
第32回島根県老人福祉施設協議会研修大会	11月17日	3名
栄養ケアプロセスを用いたLIFE活用方法を学ぶ研修会	11月26日	1名
介護支援専門員更新研修（実務未経験者）兼再研修	12月1日	3名
社会福祉施設における新型コロナウイルス感染症対応研修	12月6日	1名
ユニットリーダー研修（講義・演習）	1月26日	1名
第19回島根県ケアマネジャー研究大会	1月28日	1名
第1回全国老人福祉施設大会・研究会議	1月26日	1名

※本部研修及び交流体験研修を除く